

□■養成所ニュースプラス第2号 2024□■

今日は、世界保健機関（WHO）が定める「国際禁煙デー」です。日本でも厚生労働省が今日から1週間を「禁煙週間」とし、今年は、健康日本21（第三次）をふまえ、たばことCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の関係性をテーマに加えた普及啓発が行われます。

今週のレポート作成講座は「文章作法と引用・参考文献」を取り上げます。Plus Quizは「心理学と心理的支援」から「心的外傷後ストレス障害（PTSD）」についての問題です。選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかも重要です。あわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【第36回問題12】心的外傷後ストレス障害（PTSD）の症状に関する次の記述のうち、回避症状の事例として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. ささいな事でもひどく驚いてしまうようになった。
2. 事故が起きたのは全て自分のせいだと考えてしまう。
3. つらかった出来事を急に思い出すことがある。
4. 交通事故にあった場所を通らないようにして通勤している。
5. 大声を聞くと虐待されていたことを思い出し苦しくなる

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

・（35期生）教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ

申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

・（36期生）教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ

「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。

・（36期生）見込書類（実務経験証明書）のさしかえについて

入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。

・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。

レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

・第37回国家試験は、令和7年2月上旬です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1290920&c=3246&d=99c7>

・第37回国家試験から適用する社会福祉士国家試験合格基準並びに総試験時間数が公表されました。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1290921&c=3246&d=99c7>

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。

※申込開始は、令和6年6月3日（月）10時からを予定していると案内されています。←New

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1290922&c=3246&d=99c7>

■Plus Info・・・・・・・・

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1290923&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1290924&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【レポート作成講座第2号／文章作法と引用・参考文献】

1学期も2か月目に入ります。計画的に印刷教材学習、レポート作成を進めていきましょう。

さて、文章作法についてです。受講生の皆さんのルール違反ワースト5は、「である、だ」（常体）に「です、ます」（敬体）が混在もしくは全て敬体のもの、段落が一つもないものまたは文章ごとに段落としているもの、体言止め、数字のひとマスへの入れ方、引用・参考文献の未記入です。「受講の手引」20ページを確認してから作成するようにしてください。

次に、引用・参考文献についてです。毎年、テキストから写しているにもかかわらず、文献を記入しなかったために受付不可となる人が少なくありません。文献の未記入は、ルール違反であり「剽窃」にもなります。文献を記入し、テキストを書いた筆者の文章だと示すことは、皆さん自身を守ることに繋がります。

【Plus Quiz 正答と解説】

共通科目テキスト2 第4章第1章「心の不適応」に、「心的外傷後ストレス障害（PTSD）」は「実際に命の危険にさらされるような」「脅威の体験や目撃によって生じる症状」だと説明があります。「DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル」において PTSD は、「心的外傷およびストレス因関連障害群」に分類されており、問題文中の「回避症状」もトラウマ後に現れる主な症状のひとつです。他の症状には「侵入症状」「認知と気分の陰性の変化」「覚醒度と反応性の著しい変化」などがあります。

ストレス理論や、対処法のコーピング、燃え尽き症候群等ストレスに関する問題は、毎年のように出題されてきました。それだけ社会福祉士の支援においても必要な知識であることがわかります。「心的外傷後ストレス障害（PTSD）」は第33回でも出題されています。

1. ×過覚醒となり、少しの刺激にも驚いてしまうのは、「覚醒度と反応性の著しい変化」の例と言えます。
2. ×物事を悪い方に捉え、自責の念にかられるという陰性の気持ちに陥ってしまうのは、「認知と気分の陰性の変化」の例になります。
3. ×トラウマとなった出来事の記憶が蘇るのは、「侵入症状」の例で、フラッシュバックと呼ばれます。
4. ○トラウマとなった出来事に関連する人や場所、事物、会話等を避けようとするのを「回避症状」といいます。
5. ×過覚醒のため、大声を聞いただけで虐待を思い出して苦しくなってしまうのは、「覚醒度と反応性の著しい変化」の例と言えます。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus